

ISO14001 導入で P－D－C－A サイクル機能を

株式会社 ちばぎん総合研究所
主任コンサルタント 伊藤 弘

私がコンサルティングを実施していて感じることは、多くの中小企業では、「P－D－C－A サイクル」がうまく機能していないということである。

P－D－C－A サイクルとは、PLAN（計画）・DO（実行）・CHECK（点検）・ACT（改善）という管理のサイクルを、会社全体ではもちろん、各部門でもきちんと回して、日常業務を計画的に行うことである。このサイクルが的確に回るから、業務の継続的改善が図られ、経営の質が向上し、その結果として安定して収益が確保できるようになるのである。

計画は作成したが単なる数字目標だけで具体的な実施内容が欠落していたり、計画を実行に移してはみたが、その結果まではフォローしていない中小企業が多いように思う。

経営に関する国際的な標準規格に ISO マネジメントシステムがある。経営全体の質を高めるための ISO9001 や、環境負荷を軽減させるための ISO14001、情報管理を徹底するための ISO27001 などである。

ISO マネジメントシステムでは、P－D－C－A サイクルの構築が不可欠なため、必然的に P－D－C－A サイクルの考え方が社内に導入されることになる。

私は、ISO14001 のコンサルティングを数多く手がけてきたが、ISO14001 を導入した企業では、環境に関することについて社内に P－D－C－A サイクルが定着することは当然のこととして、それ以外の生産管理部門や営業部門などにも P－D－C－A サイクルが回り始める例が多く見られる。

ISO14001 では、PLAN として、環境目標・目的の設定、環境活動計画書の作成が要求される。次に DO として、権限の設定、責任の明確化、社員教育の実施、情報伝達の徹底、運用ルールの決定、マニュアルに沿った業務運営などがある。

CHECK としては監視・測定、記録の管理、内部監査の実施があげられる。最後に ACT としては、経営トップの見直し・改善、環境活動計画の実績評価等がある。これを徹底して実行することで社内に P－D－C－A サイクルがきちんと回るようになり、環境負荷の軽減・改善を実現するとともに、経営のムダ・ムラ・ムリがなくなり、企業の収益体質も良くなってくるのである。

環境に対する社会的関心は、近年ますます高まってきており、特に地球温暖化については非常にクローズアップされてきている。環境負荷の少ない中小企業といえども、二酸化炭素の排出や資源のリサイクルなどに関する社会的責任は重くなってきている。

従って、ISO14001 の導入を検討してみてもどうか。それによって、少なくとも社内の環境負荷に関しては P－D－C－A サイクルが回るようになることは間違いない。それをさらに他の部門まで広げていけば、会社全体に P－D－C－A サイクルが回るようになる。

P－D－C－A サイクルを回す必要性は古くから言われているが、なかなか実現させることは難しい。ISO14001 の導入がきっかけで会社全体に P－D－C－A サイクルが回るようになればこんな素晴らしいことはないと思う。

